

東九州支部報

第 58 号

公益社団法人 日本山岳会 東九州支部 2012年7月25日発行



目 次

1. 会務報告	I Cathell	WY _	(1)私の無名山ガイドブック no.49	飯田 勝之	13
(1) 第一回 支部長会議	加藤 英彦	2	(2)根子岳縦走	中野 稔	14
(2) 平成 24 年度 通常総会	加藤 英彦	2	3. トピック	1181	
2. 支部活動報告	150-		(1)三角点と城山探検 第3回	安部 可人	15
(1)4月月例山行	宮本眞理子	3	(2)より安全な登山のために no.5	安東 桂三	17
(2) 蔚山支部との交流(由布岳)	飯田 勝之	5	4. インフォメーション		
(3) 蔚山支部との交流(鶴見岳)	牧野 信江	6	(1)山登り・トレッキング入門講座	of the little of	19
(4) 6 月月例山行	下川 幸一	6	(2)山の安全を祈る集い		20
(5) 7 月月例山行	藤澤 容子	11	(3)合宿交歓会と清掃登山	enterior	20
(6) 青少年体験登山	佐藤秀二	11	(4)9 月, 10 月, 11 月月例山行予定		21
3. 個人活動報告			(5)ゴーキョ・ピーク登頂トレッキング	(- 123)	23

1. 会務報告

平成24年度 第一回支部長会議報告

日時:平成24年6月16日(土)10時30分より

場所:日本山岳会集会室

議題 1. 平成 24 年度総会議案について

- 2. 各プロジェクトチームの報告
- 3. Youth Club 報告
- 4. その他

出席者 全国 31 支部支部長(代理人 3 人) 本部役員会長以下 13 名

定刻 10 時 30 分 開始

司会進行 高原常務理事

① 会長挨拶 尾上会長あいさつ

本日は支部長会議、そして総会と会としては 一番忙しい一日である。この総会は 4 月 1 日誕生した公益社団法人として第一回目の 総会である。この機会に会の現状報告をした い。課題としてまず会員減である。若い会員 が少ない。これはひいては会の財政圧迫を招 いている。改革が急務である。強調すれば会 の存続の危機である。どう対応するか知恵を 絞りたい。ここで各プロジェクトチームの活 動紹介をしておきたい。

- ルーム検討チーム
- 災害支援プロジェクトチーム
- ・ 組織運営改革委員会 常務理事が中心となって
- ・ 会員受益検討チーム
- ・ Youth club の発足 これは第2 JAC だ。 なんにもまして会員増強に力を下さい。 名誉会員推薦規定の方向性がある。
- ☆ 新支部長紹介 5 支部の新支部長紹介 初の女性支部長 埼玉(大久保さん) 九州では福岡支部長の新任(中馬氏)
- ② 本日の総会出席者 155 委任状 3684 計 3839 (74.6%) 定足数 総会は成立

する。

③各支部の事業報告は配布されたレジュメ を各自目を通すことで報告にかえる。

◎会務の報告 小林財務担当常務

- ・本年度の支部への運営交付金 5月末の会員数に乗じた金額を6月末に 送金する。
- ・ 寄付金についての説明 詳細は7月27日事務局会議にて説明する。
- ・ 「山の日」制定プロジェクト 萩原理事
- ・ 「支部活性化」プロジェクト 宮崎理事
- · 「Youth Club」プロジェクト 森理事
- その他、秩父宮賞については推薦してく ださい。
- ・ 会旗についての説明あり。 関西支部長 重廣氏より各支部に一枚ずつ無料で配布 するよう緊急提案あり,検討事項となる。 京都支部が京都滋賀支部と名称変更した 報告あり。

(終了 12時10分)

平成 24 年度 通常総会

日時:平成24年 6月16日(土)午後2時 会場:東京都千代田区六番町15番地 主婦 会館プラザェフ

議事 1 号議案 平成 23 年度事業報告(案) の承認の件

> 2号議案 平成23年度収支決算報 告(案)財産目録(案)承認の 件

> 3号議案 平成23年度除籍予定者 の件

報告事項

「基金及び積立金等規定」の制定について

定足数の報告 在籍会員 5142 本日出席 110 委任状出席 3907

<u>安任狄田席 3907</u> 計 3986

1/3以上で総会は成立する。



総会レジュメに基づいて議案の説明があった。執行部の提案どおり承認された。

「3 号議案」会費滞納に伴う除籍対象者 85 名の中に東九州支部の役員に任命している者がいた,後の懇親会の席でもある人から指摘された。本人は悪気もなく納めるのを忘れていたのかもしれないがこんな風に全員に記録として披露されるとは恥ずかしい気がする。以後気をつけてもらいたい。

総会も何事もなく承認され無事終了。時間も 余った。引き続き会場を移して恒例の懇親会 (会費 3,000 円)があった。

―懇親会の様子―

九州 5 支部の支部長はまとまってひとつの テーブルで懇親を深めた。今年の九州 5 支部 集会は担当が福岡であったが支部長交代で 来年に延長したい旨,提案があった。2 年後は 宮崎支部が支部創立 30 周年を兼ねて行ない たいとの話があった。

私は下記の方々と懇親を深めた。

松田雄一さん: 益々お元気そうで,まさに会の重鎮という風格があり それにふさわしい姿であった。東九州支部に在籍していた当時の昔話をした。 斉藤惇生元会長: 由布登山に案内したことを 話したらよく覚えていら っしゃられた。

古市 進さん : 九重への案内で知りあった。 独特の雰囲気をもつ人だ。

神崎 忠男さん:支部50周年記念行事のことを覚えており,先方よりまだ歌ってますかという話があった。

宮崎 紘一さん:大平会員の農大の先輩。大平さん「お元気ですか?」 との話があった。

尾野 益大さん:四国支部の設立記念集会に 出席したお礼の挨拶があった。

残念ながら,重廣さんは,所要で懇親会には欠 席されたようで,ゆっくり と話が出来なかった。



6時30分頃 お開き

2.支部活動報告

4月月例山行 平戸島山行 宮本眞理子

2011年度「県内と九州の島の山に登る」のテーマによる最後の4月山行は平戸島の志々伎山、屏風岳、安満岳の三座登山となった。4月29日、早朝4:00「サニー」前を中野車で出発。程なく久保車と合流し、

別府にて飯田氏・遠江さんが乗り込み、メン バー9名でいざ出発となる。

一路、高速道経由してR204号に入り、 平戸大橋を渡り、いよいよ平戸島に上陸する。 道なりに咲き始めた「平戸つつじ」が皆を歓 迎してくれる中、R383号, 県道12号と ひたすら南下する。

畑のあちこちには平戸の名産じゃがいも の花も咲き誇り、うちの宿六のじゃがいも畑 の比にあらず、見事な生育なり。小 1 時間程 にて平戸島最南端に位置する九州百名山の ひとつ志々伎山登山口に到着する。装備を整 え、9:00前登山開始。照葉樹の原生林の 中を進み途中、志々伎神社の中宮に皆で詣で る。八合目あたりであったろうか、そそり立 つ岩峰を頭上に眺めながら急な岩尾根を一 歩一歩慎重に登っていく。9:40上宮の祀 られた志々伎山頂(347m三等三角点)に 到着。大海原の中に九十九島から五島の島々 まで望む360度の大パノラマである。駐車 場で待つ西さんが眼下に小さく見える。皆で 「ヤッホー」と声を掛ける。登りには気付か なかったが頂上直下にはいかり草・春蘭・ま いずる草等がそこかしこに咲き乱れ、こころ 和まされる。西さんの待つ駐車場に10:3 0下山。

次の屏風岳(394m-等三角点)に登る ため車で移動。往路を津吉橋まで戻り、迷い ながらも右側の新しい道路に入る。早福トン ネルの100m手前で旧道に入る。屏風岳林 道より、登山口へと進む。

11:15車を下り、急斜面の桧の植林帯 を進むと程なく尾根に到達。石の鳥居をくぐ り、ニレ等の照葉樹林の中を進み、石段を登 ると12:00丁度に山頂に着く。戦時中の 久保・中野・宮本 防空監視哨の遺構の上でめいめいにお弁当 を食べていたら西さんが「ヤッホー」と後か ら登ってこられた。何でも先にくぐってきた

石の鳥居に西さんの生年月日(昭和七年二月 吉日)が刻まれており「これは何が何でも登 らねば!」と思われたそうだ。さっそく、西 さんを囲んでの記念写真となる。13:15 下山。

最後は平戸島の最高峰安満岳(514m-等三角点)である。南登山口より14:00 過ぎ登山開始。椎・アカガシの照葉樹林の中 の整備された遊歩道を緩やかな下りを経て 登りにかかる。石の鳥居をくぐり、中央部が 高くなった珍しい石組みの参道を踏み外さ ないよう進むと10分程で神社に到着。西に 回り込み、14:35見晴らしのよい展望岩 場に着く。北に生月島その先に壱岐の島、西 から南方向に五島列島も浮かんでみえる。



下山時游歩道を左に逸れ、テープのある山頂 への分岐点より5分程登りつめると平戸島 の最高点一等三角点の天狗岩に辿り着いた。 14:55下山、その後は一気に平戸の街に 繰り出し、めいめいに平戸のみやげを手にし、 20:00過ぎ、帰途に着いた。 長い道中、お一人で安全運転して頂いた久保

参加者~西·飯田·牧野·藤沢·岐部·遠江·

氏・中野氏に一同深く感謝でした。

第8回

韓国山岳会蔚山支部との交流

由布岳 飯田 勝之 鶴見岳 牧野 信江

8年目を迎える韓国山岳会蔚山支部との 交流。毎年相互交代訪問して行う交流登山も 今年で7回目を迎えた。昨年は我々が韓国を 訪問し、韓国本土最高峰の智異山に登った。 今年は我々が蔚山支部を迎える番だ。事前に 相談して中で決まったのは、登る山は大分の 名峰由布岳と泉都別府のシンボルの鶴見岳、 期日は5月の下旬の週末を挟む日程。

そして、5月25日(金)の昼に船で福岡港に着いた蔚山支部一行の16名(通訳兼ガイドを入れて)は、字佐八幡宮と安心院の東椎屋の滝を観光して夕方別府のホテルに着いた。早速一行を迎えての懇親会で、別府市北浜の中華料理店「新龍門」に集まった東九州支部会員は23名。

加藤支部長が歓迎の挨拶で「由布岳は有名な由布院温泉地の背後に聳え立つ山で、別名「豊後富士」ともよばれており古くから愛されてきた山です。鶴見岳は全国一番の別府温泉の背後の山で登山者も多く、また山頂までロープウエイが通じて観光客で賑わっております。ともに大分県を代表とする山で、2日間2つの山を十分に楽しんでいただき、下山後には温泉にて十分癒されてください」と挨拶。

続いて、蔚山支部の李相鎬(リー・ソンホ) 支部長が挨拶に立った。李氏は毎回訪日し、 今回も来ている具永喆(ク・ヨンチュル)前 支部長の後を受けて、昨年我々が智異山を訪 問した後に支部長に就任した人である。彼は エベレストをはじめ、マナスルやダウダギ リ、マカルーなど名だたるヒマラヤの名峰を 踏破した経歴の持ち主だ。「東九州のみなさんとはとても仲の良い友達以上の、兄弟のような気持ちを感じています。これからも長くおつきあいしていきたいです」と挨拶をした。

乾杯には、東九州支部参加者の最長老で、初回の韓国訪問団の団長をつとめた甲斐一郎会員が音頭をとって、なごやかな宴会の始まり。宴もたけなわになってくると、まずは東九州支部の参加者から自己紹介。続いて蔚山支部の自己紹介と続いて、そのあとはアリランや坊がつる讃歌がハングル語、日本語混成で飛び出すなどなごやかに、賑やかに宴は進み、あっという間の3時間であった。

翌26日(土)は由布岳へ。過去二回由布院を通っている韓国のメンバーは、盆地から見上げる由布岳を見て一度登りたいと言っていた山である。南登山口から登り、西峰からお鉢廻りをして東峰に登り、日向越へ下つて南登山口までのコース。そして27日(日)は鶴見岳から伽藍岳への北尾根縦走だ。この日は朝から雲一つない快晴。鳥居登山口から鶴見岳山頂へ。さらに鞍ヶ戸のアップダウンから、船底、内山、伽藍岳へと足を伸ばして塚原温泉へ下山のコースで二日間の山行を楽しんだ。一行は翌日、翌日杵築と由布院を観光して午後福岡港から帰国の途についた。



ここからは牧野信江さんの報告です。

前日の由布岳に続き、5月27日(日)鶴 見岳登山です。午前8時30分鳥居登山口~ 鶴見岳~鞍が戸~内山~塚原越~伽藍岳~ 塚原越〜塚原温泉のコースです。交流登山は 1回目は話し合いのみで、今回はそれも含め て8回目だそうです。加藤支部長、西さん、 飯田さんその他の会員、会友の皆様の働きで この交流登山が続いているのを感じます。こ の日は好天に恵まれました。火男火売神社の 手前の水場で水を飲んで登りにかかります。 先頭は久保さん。最後は中野さんです。2時 間で鶴見岳山頂です。観光客も多かった。集 合写真を撮りました。鞍が戸までの山道にピ ンク色のミヤマキリシマが咲いています。韓 国山岳会の人達は皆、健脚です。女性3人を 含む11人で、他に通訳の男性1人が参加し ています。お菓子や韓国海苔をもらいました。 言葉が通じないのがもどかしいけどなにか 気持ちは通じるではと思います。李建旭さん は日本語を話していました。急な下り坂をす べらないように注意して船底につきました。 そこで韓国山岳会の人達がアリランともう 一つの歌を歌ってくれました。上手でした。 寒田の木山さんがすぐハーモニカを取り出 してアリランの伴奏。すばらしいひとときで した。こんどは内山への急な登りです。1時 10 分内山到着。そこで韓国の男性の一人は 腕立伏せをし、他の男性2人は傘をさしてい ました。3時20分塚原温泉に下山。西さん が待っていてくれました。加藤支部長の挨拶 の後、皆で万歳をしました。李相鎬さんの挨 拶で来年10月雪岳山ソラクサンに来ない と悔むことになりますよとのことでした。こ の人はヒマラヤなどにも行っておられると 下川さんから聞きました。参加者全員、会の 旗に名前を書きました。韓国山岳会の人は漢 字の名札を付けているのですが、旗に書いた のはハングル語でした。それから夫婦別姓だ そうです。バスで帰られるのを見送りました。 アリランを歌えるようになりたいと思いま した。 蔚山支部の人たちは大分の山登りを楽 しまれたと思います。

参加者 加藤英彦 西孝子 飯田勝之 興田勝幸 大林正彦 木本義雄 渡部昭三 木山広喜 下川幸一 中島洋祐 園田暉明 中野稔 久保洋一 宮本真理子 中根亮 甲斐一郎 石神美智子 牧野信江

6月月例山行 剱山~三嶺縦走

リーダー 下川幸一

2012年6月月例山行の剱山~三嶺縦走のリーダー報告をします。

梅雨期の縦走登山ということで申し込みが 少なくメンバー集めには苦労したが、最終的 に男性4名女性3名合計7名の参加者が決 定する。

下川幸一、加藤英彦、久保洋一、中野稔、 宮本真理子、阿部幸子、佐藤まゆみ 6月22日(金)曇り

台風4号に続き5号も九州に接近し、梅雨前線と重なって各地で大雨洪水警報が出され、3日間の山行が気になりながらの初日となった。

大分駅上野の森口に5:30に集合し久保車、中野車に分乗し佐賀関港へ向かう。

40分で佐賀関フェリー乗り場に到着し、乗船手続きを済ませる。

予定通り7時にフェリーが出港する。海上は波も穏やかで時々朝日が差し込むほどの信じられない天候回復にホッと一安心する。 8時10分に三崎港に到着。8時20分に三崎港を出発し、大洲インター目指して197号線を飛ばして行く。

大洲インターより高速の松山自動車道に 入り、一路徳島の美馬目指して進む。 途中何度かトイレ休憩し、川之江 JCT で徳島自動車道へ右折する。トンネルを過ぎると徳島県池田市だ。

早朝スタートのため、1 1時10分に吉野川 SAにてやや早い昼食とする。11時50分に美馬にて高速を出て、438号線の剱山ドライブウエーで見ノ越へ向かう。13時に見ノ越に到着し、久保車、中野車は縦走登山のため、下山予定の「名頃」へ車をまわすため早々にスタートする。その間、残る5名は本日の宿舎の剱山頂上ヒュッテへ向け歩き始める。

明日の無人の三嶺小屋用の食料を詰めた 15キロのザックはかなり重い。見ノ越登山 口より神社の石段を登りつめて、神社で安全 祈願の参拝をし右の登山道へ入る。

鬱蒼と茂るブナの巨木林の中を進む。しば らくして、リフトの下を通り抜け、ブナの原 生林の中のジグザグ道をゆっくり登って行 く。

まもなく分岐を左に取り、約45分で西島神社に到着。左に曲がって登りつめると、リフトの終点の西島駅に着く。ここでザックをおろして小休止。明日の縦走最終地点の三嶺がはるか彼方にくっきりと見える。

しばし景色を楽しんだ後、本日の宿泊する 頂上ヒュッテ目指してスタートする。

分岐を左に曲がり、きつい尾根道コースを 進む。立派な道が山頂へと伸びている。

途中で安徳天皇が山頂に登る途中、松の木 に刀を掛けて休んだと伝えられる「刀掛けの 松」で一休みし、記念撮影をする。

しばらく石ころだらけの登りを進むと、山 頂に建つ山小屋が見えてきた。

一気にピッチを上げて急な石段を登って 行く。15時10分に到着。早速、宿泊手続 きを済ませ、ザックを置いて剱山山頂目指し 登って行く。 頂上ヒュッテ横の石段を上がり、よく整備された木道を歩きながら一等三角点のある剱山山頂にたどり着く。標高1995Mで西日本第二の高さを誇る修験道の霊場だが、三角点の周りにはロープが張って入れないようになっていた。

山頂からの眺望は素晴らしく、運良く青空ものぞきはじめ、雄大な次郎笈が目の前に飛び込み、思わず感嘆の声をあげた。

遠くには明日目指す三嶺の美しい姿も望まれ大満足だった。

16時に頂上ヒュッテに戻ると久保、中野組も無事到着していた。

本日の宿泊は悪天候予報のため、150名 収容の頂上ヒュッテが我々7名のみの独占 となる。早速、四国で一番高いところにある お風呂で汗を流し、17時30分より頂上ヒ ュッテ自慢の豪華な夕食がビールで乾杯し 盛大に始まった。

ヒュッテのお母さんの手作り料理、名物の おでんなど山小屋でこんなに美味しい料理 を食べることは全く予想しておらず、感謝の 気持ちで一杯になった。

部屋に戻ると加藤さんがハーモニカを取り出し、哀愁のこもったメロディが流れてきた。山小屋の雰囲気にピッタリ合った素晴らしいプレゼントに大満足し眠りについた。

6月23日(土) 曇り時々雨

4時に起床し、5時前の日の出を剱山の頂上で迎える予定であったが、窓の外はガスで全く見えない。5時すぎまで山頂で待つも厚い雲がかかり、日の出は勿論、遠くの山並みも見えない。ガッカリしながら山小屋へ引き返す。



<剣山山頂にて>

5時15分に温かい朝食を用意していただき、大本命の本日の三嶺までの縦走に備える。予定通り5時30分に頂上ヒュッテを出発。周囲には白いガスがかかっているが、幸いにも雨は降っていない。本日の行程は19kmで昼食、間食休憩含めて9時間(正味8時間)の予定である。見晴らしのいい尾根伝いの縦走コースをゆっくり進み、高山植物、眺望を楽しみたいと考えている。

よく整備された木道をゆっくり登り、5分後に剱山頂上に到着。全員で記念撮影をするが、女性陣が重いザック(1 1 kg 前後)を背負って緊張しているのがわかる。

いよいよ長丁場の縦走のスタートだ。前方に見える次郎笈目指して、加藤さんを先頭に 笹原の急坂を下ると鞍部に到着する。左右の 谷を見ると青々としたブナの自然林で実に みごとである。

6時に標識のある次郎笈峠に到着。加藤さんは右の水場ルートにトラバースし、我々6名は直登で次郎笈山頂を目指す。あえぎながら登っていき、6時35分に頂上に着く。振り返ると次郎笈山頂からの眺めは素晴らしく、剱山が我々を見送っている。だいぶ近づいた三嶺の山々が白いガスの間からくっきり見える。

次郎笈山頂から三嶺方面に向かって少し下り、更に前方に見える鞍部に向かって笹原の 高原状の尾根を一気に下る。この広い鞍部に はスーパー林道への分岐がある。別行動の加藤さんとは間もなく合流する。

鞍部から丸石山への登りがゆるやかに続く。約20分で山頂に到着。振り返って見ると、次郎笈の姿が剱山からとは全く違い、緑の稜線が光り輝いて実に美しい。感動の一瞬である。

丸石山で眺望を楽しんだ後、丸石避難小屋 目指して出発。始めは灌木林の中を下り、続 いてブナの自然林をゆるやかに下っていく。 時々ウグイスやカッコーの鳴き声が聞こえ て我々を楽しませてくれた。

8時丁度に丸石避難小屋に到着。到着とほぼ同時に雨が降り始め、山小屋の中で予定通りの昼食をとる。

この小屋から高ノ瀬まではコースがよく 整備されており、ゆっくりペースで登り、最 後の岩屋を乗り越えて50分で頂上に到着。 ここが本日の縦走コースの半分の距離で、予 定通りのペースで進んでいる。皆、元気で安 心する。

小休止の後、2時間の予定で白髭避難小屋を目指して出発。笹深いブッシュの中を下ってまもなく、加藤さんが突然大きな声でオオヤマレンゲの群落の発見を皆に知らせる。

ほとんどが蕾状態で1週間後が見頃と思われるが白い花が2つ咲いており我々を楽しませてくれた。

白髭小屋へ向かう途中、熊よけの鈴を鳴らす一人の登山者に出会う。徳島県の営林署の職員でオオヤマレンゲの保護と観察との事であり、我々の発見した場所が唯一の群落と教えてくれた。又、この劔〜三嶺の縦走コースが「四国山地のゴールデンルートだ」と誇らしげに教えてくれたのが印象的であった。今度機会があれば、紅葉の時期に是非縦走してみたいと思った。

稜線のやや南斜面を行くと、やがて平坦な1

732mの高台に到着する。まわりでは初夏を思わせるセミのなき声が聞こえてくる。ここでは眺望が開けて、目指す三嶺がぐっと近くなってきた。

下を見下ろすと明日下山予定の名頃の町もかすかに見える。

笹原から樹林帯に入る縦走路では、祖母、 傾山で見られる枯れ木が多く見られた。

高ノ瀬から2時間で白髭避難小屋に到着。 立派な無人の山小屋で、ここで昼食の弁当を 広げる。温かいお茶、コーヒー、菓子など皆 の持ち寄りですっかり元気になった。

一人の登山者が山小屋に飛び込んできたが、本日2人目の出会いであり、縦走する人はほとんどいないようだ。

表にある標識では、本日の目的地「三嶺」 まで5km とあり、いよいよ残り2時間の行程となってきた。

12時5分、ホトドギスの鳴く中、白髭小屋を出発。途中で美しいアザミが皆を楽しませてくれる。白髭山分岐を右にとり、10分の下りと30分の登りで13時5分にカヤハゲ(東熊山)に到着する。

次第にガスが濃くなり、周りがほとんどみ えなくなってきた。しかし、ここから三嶺ま ではあとわずかということで、皆自信に満ち た顔になってきた。

40分程のゆるやかな登りの後、三嶺直下で一休みし険しい最後のアタックに備える。 岩峰の右を迂回して鎖場を登り、最後の急登を一気に進み、ついに14時20分三嶺山頂に到着する。



<三嶺山頂にて>

全員達成感で一杯のいい顔をしている。周囲はあっという間に白いガスで数メートル先が見えない程天候が急変してきた。一気にコメツツジの中を下山すると、目の前に小池が現れその横に立派な三嶺小屋が見える。14時40分到着。本日の縦走総時間は9時間10分。ほぼ予定通りの時間で全員無事踏破することができ本当によかった。

悪天候のおかげ(?)で昨日に続いて本日の三嶺小屋(40人収容)も我々が独占というおまけつきであった。

早速、中野、阿部、下川の3名が水汲みに 行き、16時30分に早い夕食が始まった。 高級フォンドボーカレーやキュウリ、ソーセ ージの野菜サラダ、焼酎、ウイスキーで大宴 会となる。天気予報どおり、本格的な雨とな り、明日は天狗塚を中止し、名頃下山に変更 する。

6月24日(日) 雨

夜中の1時30分に屋根をたたく大雨の 音で目が覚める。

窓は二重サッシのため蒸し暑く、おまけに ダニ攻撃にあい寝苦しい一夜となった。4時 に起床し、パン、サラダ、缶詰のボリューム たっぷりの朝食をすませると、ザックは随分 軽くなった。

小雨の中5時35分に三嶺小屋を出発。小 池の横から丸太の階段をゆっくり下り、丈の 低い笹の急斜面を慎重に下って行く。ガレ場 を過ぎてまもなく水場の標識が現れる。

ると独特の叫び声が聞こえてきた。右前方に 5~6頭の鹿発見。やがて視界が広がり、平 坦になったダケモミの丘にでる。

ここで従来の平尾台コースとは別の新し い尾根コースの道を選んで進む。急傾斜の連 続で尾根の雑木林の中を一気に下っていく。 雨が降っても雑木林の中のため、少しも気に ならない。

7時10分に林道に飛び出すが、再び林の 中を下り続け、7時40分に名頃登山口に到 着した。三嶺小屋から約2時間で下山してお り、予定より早く到着することができた。

雨は本格的に降っており、見ノ越まで車を 回収し名頃登山口を9時15分に出発する。

早く下山したため、祖谷のかずら橋、大歩 危の観光を楽しみ、温泉「秘境の湯」で3日 間の疲れを癒し、一路三崎港フェリーへの帰 路につく。

今回の縦走登山は梅雨前線の中台風4号 5号が重なる最悪の天候の中での実施であ ったが、奇跡的に天候が回復し、山小屋も2 日間独占というおまけがついたのはラッキ 一であった。

重いザックを背負った女性陣もよく頑張り ました。

久保さん、中野さん、長距離の運転おつか れさまでした。

《参加者のコメント》

今回の縦走登山は今の私の体力からすると 到底無理なことと思い、事前ミーティングに 参加するも、天候不良もあり不安であった。 が、皆さんの熱い思いに押されて「よし、行 くぞ」と決心する。最初こそリュックの重み でこころが萎えそうになるも雄大な山の稜 線を右に左に眺め歩を進めるうちに下界で

は自分のこころの有り様がちっぽけなもの 樹林帯の尾根コースの急さかを下りてい のように思われた。3 日間、「こころのリセ ットタイム」を得たようで下山時には爽やか こころ持ちに変わっていた。

宮本 眞理子

初めての縦走コースで、10kg の荷物が肩に かかりこれから先の事が思いやられた。一日 目の剣山ヒュッテでは手作りの夕食と、手持 ちのつまみでカンパイ!!少し軽くなった ところで爽やかな草原コースを歩くこと 8 時間、御仲間の皆様と思い出に残る二日間で した。

阿部 幸子

日本山岳会東九州支部の会友になって初め ての山行参加でした。台風や梅雨前線と、天 候が不安の中、出発しましたが、ラッキーな ことに、縦走日の一日は天気が持ち、曇りの ためにかえって暑くもなく、心地いい風も吹 き山歩きには快適でした。剣山から三嶺まで の縦走路は地元の方がゴールデンコースと 言われるだけあって、歩きやすく、四方の 山々を眺めながら、山にいだかれていること のひと時が、とても幸せに感じることの出来 るコースでした。山小屋も悪天候続きのため か、貸し切り状態で、無人小屋もきれいで快 適でした。2日目の夜間から雨となり、翌日 は下山し、かずら橋や大歩危を観光するおま けもついてとてもいい山行でした。

佐藤 まゆみ

7月例山行報告雲仙普賢岳と周辺の山 普賢岳(1359.3M)国見岳(1347M) 妙見岳(1333M)

藤澤 容子

実施日 平成 24 年 7 月 8 日 (日) 参加者 1 4 名

CL-中野稔 SL-久保洋一

星子貞夫/飯田勝之/中島洋佑/岐部威吉/西 孝子/池上那子/池辺明美/宮本真理子/遠江 洋子/牧野信江/阿部幸子/藤澤容子

行程 集合:午前5時 JR大分駅

大分IC→金立SA→諫早IC→国道34/57号 仁田峠循環自動車道→雲仙仁田峠(登山ス タート/ゴール)

踏破 普賢岳⇒国見岳⇒妙見岳

連日の九州を襲った集中豪雨で心配された空模様。曇空の大分を出発、道中除々に天気は回復基調。雲仙仁田峠循環自動車道(無料)は環境費用 100 円程度の負担お願いがあり、ヘヤーピンカーブの合間見え隠れする有明海の視界を楽しみながら 9 時 30 分仁田峠駐車場に到着。雲仙岳は普賢岳/国見岳/妙見岳の三峰、野岳/九千部岳/矢岳/高岩山/絹笠山の五岳を総称して「三峰五岳の雲仙岳」と呼ばれ、今回はその三峰踏破です。

総勢 14 名、西さんと池上さんは山麓散策 組、12 名は登山組。10 時、仁田峠三角点 1078.9 Mを確認し、普賢神社に安全祈願参拝 後登山開始。今年5月ジオパーク国際会議が 島原で開催され、それに合わせて危険区域だ が、整備された普賢岳と平成新山の間を登る 新ルートに変更。鳥居をくぐりモミ林に覆わ れたトンネルを緩やかに登って行く。山アジ サイ、下野草と大きく膨らんだ蕾のシシウド 等が出迎えてくれた。随所にルートや地質等 の説明案内板や休憩所があり分かり易い。 10時35分紅葉茶屋(茶屋はない)を過ぎると鬼人谷口⇒西の風穴⇒北の風穴⇒鳩穴分れと国際級?の地質と有明海の展望を堪能し、急坂に息を切らしながら11時30分新旧山の谷間立岩の峰に。巨大な岩や麓に噴きだす水蒸気の平成新山(1483m)が間近に迫り圧巻!!岩肌の新山と背後、緑の普賢岳、対照的な異空間に佇む。新山を後に目前の山容普賢岳を目指す。普賢神社祠があり、参拝。丁度12時普賢岳山頂着。視界良好360度山々や海のパノラマ展望、結構広い切り立った岩の山頂で昼食。次は国見岳へ。

急坂を下り紅葉茶屋⇒木漏れ日の中のなだらかなアップダウンで国見岳分岐に。山頂直下、急坂の岩段差をロープを頼りに登りつくと国見岳 13 時 30 分。

妙見岳へと下る。神社の横手から登山道崩壊箇所を慎重に妙見岳に。先程の新山ドームと普賢岳のコントラストの山容に感激!! ロープウエイの展望台を横目に好天候で太陽が容赦なく照りつける灌木林の丸木段を下ると眼下にゴールの仁田峠 15 時下山。20年前の噴火で犠牲になった町々、人々に想いを馳せ感慨深い山行でした。参加者の日頃、精進のお陰で天気に恵まれ、往路/登山/復路それぞれ5時間の行程で無事20時頃大分へ帰着。お疲れ様でした。特に運転員さんお世話になりました。(帰路車中耐えきれず爆睡。御勘弁下さい)

青少年体験登山 佐藤秀二

今年も、青少年体験登山の季節がやってきました。まだ、梅雨は明けておらず雲一時雨の予報。天気を心配しながら大分駅に向かう。今年は、新駅の上野の森口での待ち合わせ。バスは無事に来るか?参加者は間違えずに来るか?と心配しながら待っていると、まず

バスが無事到着してひと安心。続いて参加者 も続々と集まってくる。出発十分前には参加 者がほぼ揃ったがあと二家族来ていない。ひ ょっとして去年の場所にと飯田さんが探し に行くと、案の定一家族が去年の場所で待っ ていた。もう一家族は連絡が取れず、結局十 分遅れで 7時 10 分に大分駅を出発した。途 中道の駅湯布院に立ち寄り、牧ノ戸峠には、 9時に到着。ここで健脚組、元気組、のんび り組に分かれて体操を済ませて順次出発。私 は、元気組の担当で星生山経由で久住山に向 かう。(9時20分)元気組は丁度10人で適 当な人数だ。小学生、高校生、成人と上手く 混ざっている。高校生に聞くと登山は小学生 以来とのことで、未経験に等しい。沓掛山ま での登りは、結構きつく初心者はここでエネ ルギーを使いすぎる。思い切りゆっくりと歩 き小学生には「ゆっくりすぎて調子が狂う」 とぼやかれながらコンクリート道を抜けた ところの広場で小休止。みんなまだ元気な様 子で10分足らずの休憩した後に出発。ここ からは、だらだら坂。傾斜は緩いがボディブ ローのように効いてくる。沓掛山山頂付近か らは久住山山頂が見えるが既に雲の中。雨が 降らないことを願いながら進む。雨の後はい つも道がどろどろになっているが意外にも そんなところは少なく歩き易かった。元気組 は順調なペースで進み、扇が鼻分岐手前で2 度目の小休止。渡辺さんが登りは苦手とやや 遅れ気味に。休憩もそこそこに「迷惑をかけ たらいけないから」と一人先に進む。他のメ ンバーは10分ほど休憩して出発。扇が鼻分 岐を過ぎ、星生山分岐で渡辺さんに追いつき いざ星生山へ。西千里から道を離れ小さな谷 を越えて最初の小山の急坂を登る。昔この坂 を 20 k g以上の荷物を担いで登るのが大変 だった。後で聞いたがこの旧登山道は今は登 山禁止となっているようで、今は西千里から

の直登コースが本道となっている。小山の急 登を過ぎるといったん平坦な道となり、その 後頂上への最後の坂を登る。このとき、雨が ポツリポツリと降りだした。雨具を着るか確 認したところ、登りだからと様子を見ながら 登ることとした。最後の坂を約15分で頂上 に到着。(11時10分)山頂で記念撮影しや や長い休憩。山頂は雲がかかって視界不良。 「あまり休むと遅れる」と 11 時 30 分に出 発。ちょっとした岩場があるが、ついつい難 しい道を選んでしまい高校生が転落寸前に なるトラブルが発生。こちらの対応もまずい 面があったと反省。その後順調に九重分かれ の小屋へ下る。小屋まであと 100m 足らずの ところで、ザザーという音と共に夕立のよう な雨が降り出した。これは本降りだと思い 「退避」と叫んで急いで小屋へ避難。みんな が小屋に着いたときには土砂降り状態。これ は運がよかった。その後雷も鳴り出し、これ ではとても久住山頂へ行けないと検討した 結果、久住山頂に向かった組に「行かない」 と連絡して昼食を取ることとした。小屋から 山頂付近を望むと山頂付近になにやら人の 集団が山頂直下を下っているシルエットが 見えて、うちの連中が下っているのだろうと 見て取れた。バタバタと昼食を済ませると、 その頃には雨は小降りになり参加者の大分 工業の生徒が久住分かれに下りてきた。その 後はぞろぞろと健脚組、のんびり組が下りて きて、昼食を取る。元気組は早めに下ろうと したら、「記念撮影する」と呼び止められて 下山を延期。みんなが落ち着いた段階で記念 撮影。この頃には雨もほぼ止み、視界も広が って久住山をバックに撮影となった。この後、 みんなで下山となったが、途中から再び雨に 降られるも、下りのため特に苦労することも なく、いい雨の体験登山が出来たのではない かと、思いながらの楽しい一日でした。昨年

に続いて、雷が鳴る中の雨降り登山となり青 少年体験登山の時は雨の日が多いので、支部 長も言っていたが開催時期など検討の必要 があると思われる。

3. 個人活動報告

私の無名山ガイドブック No. 49 蒲江県境の稜線歩き

飯田勝之

今回も蒲江の稜線道を歩いてみよう。今回のルートは県最南端に近い宮崎県との県境の稜線だ。中の嶺(548.5m)から東に続く県境稜線は、場照山(660.7m)の南東350mの所から主稜線を二つに分けて、一つは東に続き佐伯の元越山(581.5m)へと至っており、もう一つは南に津島畑山(506.3m)を経て陣ヶ峰(431.0m)へと続く県境稜線をなしている。

この県境稜線は伐採と植林が進み、至るところが相当なブッシュで被われていて、稜線歩きが思うにまかせないところが多い。そんな中、比較的快適な稜線漫歩を楽しめるコースとして紹介したい。登り口はこの稜線上の最低鞍部となる峠で、蒲江町丸市尾から宮崎県三川内に通じる国道388号がここを越えている。

丸市尾から狭い国道を上っていくと約5. 5 km で県境の峠に着く。やや広い峠の道路 南端には地蔵尊がある。その横から南に向かって稜線に踏み込むと良い。スギ林の中の稜 線は歩き安くて、5分ほどで左手(海岸側) の展望が開けて、そこに蒲江町の地籍図根三 角点がある。そこからは右(宮崎県側)はス ギ林、左(大分県側)は照葉樹の自然林で、 その間を心地よい稜線道が緩やかに上っている。やや登りが急になって峠から1 5分ほどで一旦狭いやや平らな地点に達す る。東側(蒲江町側)が明るく伐開かれて海 岸線が見渡せる。そこは小さな広場となって いて、中央に三角点の標石がある。点名大谷 (387.4m)の4等である。

稜線はその先がまだ少し上っており、5分 足らずで小さなピークに達する。そして稜線 道はそのままやや右手に平らに続くがそれ は宮崎県の市尾内に下る支稜線の道で間違 わないように。登りついた地点からすぐに左 に直角に、ややヤブを分けるようにして急斜 面を下るのが主稜線への道だ。露岩の多い急 斜面を下っていくと、下りついたところに古 い掘り割りの峠道が稜線を横切っている。丸 市尾と市尾内をつなぐ昔の道の跡だ。

峠から急斜面の稜線を登っても良いが、右 手の稜線直下を稜線添いに上る作業道があ り、これを歩いた方がたやすい。この作業道 はすぐ先で稜線に上がり、その先のスギ林で 終わるが、そのまま稜線上を再び緩いアップ ダウンの道が続く。時おり樹間から左手に豊 後水道、右手に県境一帯の山稜の波を見なが らの稜線漫歩で、堀切の峠から約30分、最 後はちょっと急な登りとなり、やがて小さな ピークに達する。ここが点名市尾内(383.7m) の4等三角点である。稜線道はその先はやや 深いヤブに被われていて、緩く下って、長い 緩い登り返しで、418mの独標を過ぎ、再 び長い登りで津島畑山へと至っているが、こ こから先はかなり濃いヤブもあり、快適な稜 線歩きとはいえない。



参考コースタイム 国道338県境峠~15分~大谷三角点~ 40分~市尾内三角点 地図 25,000分の1 三川内

根子岳縦走 中野 稔

2012年5月18日午前5時に大分の久保 邸を出発、7時30分には熊本空港に着いて しまった。予定通り重廣さんを乗せた飛行機 は到着し、ミルクロードに乗って阿蘇牧場の 中を西に行き、鞍岳の駐車場に着く。南の尾 根から子岳を目指し女岳、鞍岳にて麓に住む 人たちと歓談する。

ツームシ山、マゴ岳にて昼食。帰りは、ツームシ山に登り返し林道に出て駐車場まで歩く。菊池阿蘇スカイラインにて尾ノ岳に向かう。オートポリスが山頂から見て西北の方向に在り、エンジン音に誘われて下ってみたが、サーキット場は何事も無かったかのように静かに佇んでいた。

根子岳の登山口に向かう途中、大観峰にて登る前の根子岳を観察する。重廣さんの言葉が今も聞こえてくる。「安全登山にベテランは関係ない、過去の知識や経験は安心感を与

えてくれるが、安全に登れるというなんの保証にもならない。問われるのは、今どれだけ体力や精神力が有るかだ。」今を生きると言う感覚に近いと感じる。何千もの人々の登山ガイドを務めてきている人ならでの深い言葉である。いこいのむら駅に近いスーパーでお酒、馬刺しなどを調達して、ヤカタガウド登山口にてテントを張る。夕食は久保さんの手作りのカレーだ。明日の晩は秀二君の腕でキムチ鍋の予定。

朝は 4 時に起きて昼食の準備と朝食を済ませ 6 時には日ノ尾峠から西峰を目指す。先週下見登山で、20 年以上前来た事を想い出す。30 年来の夢が実現すると思うと、感慨深いものがある。昔の自分には戻れないように、明日の自分に成るのだ。この世に出来ない事はないと言い聞かせながら、生きる事は人間の無限の能力を試す為に在ると言う事を知る再確認作業だ。



去年、安藤桂三さんから、岩登りの基本を 教えられること 3 回余り、久保さんは、更に 2 回ほど。秀二君は、一度だけ。一応、天狗 の西のコルに当たる 25mの岩壁迄辿りつけ た。重廣さんと久保君は登れたが、秀二君と

私は断念した。「帰る」鶴の一声で引き返すことになった。其々の情報収集力の差が運命を分けた。ただ、東から西に縦走すれば全員無事に完走できたと思うが、夢の話。星子さんや興田さん達は、マッキンレーやエベレストの登山道を歩いているように日々の生活を送っている。成功者は、成功しても当たり前の様な生活をしているという事だ。

重廣さんの気苦労は計り知れないものがある。紙面を借りて感謝の意を伝えたい。頂いた沢山の言葉を胸に秘めながら、三人の其々の人生に於いて、勇気と自制する事の大切さを考えながら物事に取組んで行く事に成りますね。日曜日の朝、予定を変更して根子岳の天狗峰に登り東峰をピストンする登山口までサーフでゆく。秀二君は、私用の為キャンプ場で見送る。秀二君は天狗峰に学生時代登っているが、3人は生まれて初めての岩峰だ。恐怖はあったが、足は震えることなく無事に山頂に着いた。



インターネットでは沢山の根子岳縦走記が載っている。命がけで歩くと言う事を実感で来るすばらしい所だ。冗談は通用しない。 日頃の生活が生死を分ける事を試せる所でもある。例えればビルの屋上の淵を歩く様なものだ。

東峰から見る根子岳は、凛々しく懐かしく 見えた。3時半には四季の森温泉で汗を流し、 機上の人に成った重廣さんは、私達が帰宅す るよりも早く自宅に着いている筈だ。いつの 日か、一人で行きたいと思うようになってい る。根子岳縦走を。

参加者 重廣恒夫、久保洋一、佐藤秀二、 中野稔

3.トピック

三等三角点 城山 710.1 岐部城跡、日出生城 三角点と山城探検シリーズ第3回 安部 可人



内匠城

今回の主役は帆足の虎御前にしよう。日出生城城主帆足鑑直の妻、美人武勇の烈女、その末裔が帆足万里や帆足杏雨である。*「決して自害せず、城を枕に討ち死にせよ…。未練を残せば、七世勘当するぞ。」角牟礼城に嫁いだ娘への有名な書状が証拠。城山または野上城とも言う。

猪伏 13'49.9",14'08.2" 北へ、地図の作業 道は峠駐車。左へ 660(三郡小城、対島津急 造)の北側を巻いて地図にない軽トラ道が鞍 部まで。北西へ、取付きのヤブ我慢、暗い植 林の台地に城山(三群山)、20分。1586 年冬新納忠元6000騎は来た。城主野上兵 庫助(鬼千代内応)戦えず開城、この城がそ の拠点となり、角牟礼城,日出生城除き岐部 城、伐株山城、恵良城は落城(注1)。

岐部城に行こう。宝泉寺へ、郵便局左折、

町田川武内橋、岐部宅前に駐車。小倉山西下に見事に人の足型をした500等高線、左の竹林の取付点49.4"と29.2"を南の膝へ、薬研堀などを見て数分、西へ変化すぐの倒木は右へまき山道にもどる、200mで足首着。細尾根切断して4m高の堀切(左右の竪堀見事)を3回上下して踵の虎口から周囲土塁の平坦な主郭着、25分。柿色の岐部城(詰城)跡の山名板を頂上としよう。

508m、12'42.8"、10'25.7"。ヤブのおかげ保存良好、水源は中腹の墓の谷だろう。帰りは冒険、見張台のオヤユビから北へ曲輪3段差、竹林急降下15分。



教養ある新納忠元



火焚台への軌跡

館跡の田んぼ東100m、給水タンク横に 元国東水軍の岐部一族の墓地(ここから直登 はきつい、三連堀切が見られない)。

つぎは、切株山城。大分百山の切株山三等 三角点 685.5 (P 横の土塁) で梅木さんは中 世の山城, 高勝寺城とよぶ、と書いてあるが、 島津戦では善戦、内応で開城。南北朝の激戦 地として有名。

つぎは、角牟礼城展望の三の丸駐車。野面 積みの石垣、不落の水、二の丸の大手門,本 丸へ、森藩の立ち入り禁止令、町有地化のお かげ、美しい森の心地よい散歩道だ(公園か ら苦労して探検登山しないと全容分からず)。 さて特異な存在の山城2つを紹介しよう。

内匠城。三等 603.6 の西・5 3 3。土民がたてこもった。馬勢越 T 字路から内匠ウド、その裏山が城山、19'51.0"と 08'57.7"、2 mのシシ鉄柵行けず。石畳の自然歩道300m北へ、20'06.4"と 09'00.3"左入り、8 3歳の衛藤さんから20分しごかれた。沢を南西へ、尾根から楽に西へ、火焚台5 3 0 58.1"と 42.2"終点。

この城跡が一番興味ある。次回は高圧線白柱 20'01.8"と 08'51.9"の尾根分岐を南、まず城山、真北へ中世の古道、茶屋場跡まで合計約2.4km歩く計画。

次は奇襲作戦で敵撃退の日出生城(詰城、平時は玖珠ICの中の帆足城)。西椎屋の滝南、本村バス停 P,北へ黄色のハウス入り、右へ数分で三等三角点本村 568.7(不明)、左のやぶすぐ堀切、右に巻いてしのぶ竹密生の主郭へ10分。食用に竹の子採りに来て、茶碗のかけら見た、昭和始め、崩れた畑に首や刀が出た、明行寺に殿様の鞍あり、と江藤さんの話。あとひとつの松木城は省略。

(注1) 侵攻ルートは朽網·山野城〜上峠 〜白水鉱泉〜千丁無田〜朝日台〜鹿伏(城) 〜城山(本陣)。玖珠戦で、まず最初にやら れたのが田野・乾城(吊橋の下 下畑)。双 石越前守留守、小屋がけの中の妻子一族を島津方の小国の北里大蔵大夫夜討ち、300人の女性売らずに北里家の侍に与えた。かの有名な細菌学者を生んだのはその女かもしれない。

(附記)210号線沿いの玖珠の現在の地名に城か砦をつけるとよい、いかに交通の要衝だったかを証明している。

古後、帆足、平田、長野、恵良、田尻、釘野、 野田、岩室、陣の内、城ヶ尾、など多い。土 民の避難所でもあった。

(参考: 史談会の名著談会の名著玖珠川歴史 散歩」、県教委「大分の城館」、「日本の城郭 大系16」 地形図)

より安全な登山のために No.5 『ベテラン? ベテランでも?』 安東桂三 (9193)

本年5月、ゴールデンウィークの北アルプ ス。白馬岳で、北九州の男性6人パーティが、 遭難、全員死亡。新聞などのメディアでは、 ベテランの登山者とか、キリマンジャロの登 頂経験があるとか、ネパールに何度か行って いるとか、そのような記事が掲載されていま した。でも、私は、この『ベテラン』と言う 表現は、少し違うぞと思いました。もし、キ リマンジャロに単独で登ったとか、自分で計 画して登ったとか、あるいは、ネパールに、 自分で計画し、出かけたなら、その『ベテラ ン』の表現は、妥当だと思うが、そうでなく、 ツアーに申しこんで登ったなら、ただ、連れ られ登山でキリマンジャロに登ったことに なります。これは、取材してないので、真実 は判りませんが。たぶん、連れられ登山と推 察します。新聞などを読んだ一般読者には、 そこのところが、理解できていません。ベテ ランなら、彼らのザックの中にあるツエルト を有効に利用し、全員死亡には、ならなかっ たかもしれません。

少し前の話ですが、同じように、白馬岳で、 遭難が起こりました。2006 年 10 月6日の 事です。福岡熊本の7人パーティ、そのうち、 4人が亡くなりました。季節は、秋でしたが、 低気圧の通過により、積雪があり、ツエルト に避難しようとしたがツエルトは飛ばされ、 避難する場所もなく、残念な結果となってし まったのです。このパーティには、48 歳の プロガイドと、ガイドを目指す見習いガイド もいました。

また、今年の白馬岳と同じ時期に、涸沢岳でも、大変なことが、起こっていました。福岡県勤労者山岳連盟に加盟する福岡のA山の会の合宿中の6名パーティ。北穂高岳から涸沢岳を経由して奥穂高で縦走中にメンバーの一人、女性が、低体温症になり、動けなくなりました。携帯電話も通じず、そのパーティは、リーダーとその女性ともう一人の計3名は、その場所にて、ツエルト設営、避難しました。

そして、Yさんと他の2名の計3名で、救 助要請に山小屋へ向かいました。が、この3 名は、悪天候の中で、小屋にたどり着けませ んでした。ツエルトに避難の3名は、なかな か救助隊がこないのを不思議に思い、やっと 通じた携帯電話で救助要請。そこで、山小屋 では、6人パーティが大変な状態だと判り、 救助となったのです。ツエルト避難のリーダ 一は、自分の衣服を、低体温症の女性に着せ、 自分は、やっと1枚の乾いた衣服を着ただけ で合羽をまといました。そのリーダーは、そ こまでの記憶しかないと言いました。結局、 救助要請に走ったYさんが、低体温症で亡く なりました。Yさんは、かって福岡労山の会 長をしたこともあり、また、8000m峰の経 験者でもありました。残念なことですが、こ の白馬岳、涸沢岳を襲った悪天候は、予測出 来たことで、この日の午後からは、荒れることが判っていました。

涸沢岳のリーダーは、私と懇意にしている 方でしたので、先日、福岡で話を聞くことが できました。

『頭で判っていても、体が動かず、手が動かず、やっと乾いた服が着れただけ……』と言い、体重がいまだに10キロ減ったままとのこと。また、救助隊からは『6人全員が亡くなっていても、おかしくない位、大変な状況だった。紙一重だった』と言われました。

私と登るメンバーには、いつも言っている ことがあります。『ツエルトは使ってみない と使えないよ。天気が良い時は、張って中に 入る事が出来るが、本当に使う状況では、雪 が降り、雨が降り、強風が舞い、広げたツエ ルトは、どこかに飛んで行ってしまう。』そ して、自分のツエルトを見せます。そのツエ ルトにはスリングをくくり付け、そのスリン グの端をツェルト袋から20センチ程、出し ています。それを張るときには、飛ばされな いように、そのスリングにカナビラをかけ、 誰かのザックや、立木に固定して広げ、入り 込みます。支点が何もなければ、誰かの足を、 そのスリングの輪の中に、突っ込むように言 います。そうしないと、生きて帰れるツエル トは、どこかへ飛んで行ってしまうのです。

今回は『より安全な登山のために』は、ツェルトを持参せよ言っている訳では、ありません。安全に生きて帰るために、しなければならないことは、多くあります。それに気がつくか、気がつかないかが問題と思います。死ぬかもしれないことは、一万回に1回やってきます。今日の山行は、9999回目かもしれません。

次に、JAC東九州支部会員による特別山 行、根子岳縦走(西峰~天狗峰)。JAC関 西支部の重廣支部長と当支部の、K、N、S の4名パーティによるロックハイキング。

KとNは、私と少し岩を登ったことがあります。そのときは、KとNに依頼され、1日目、高崎山の岩場(登山道脇)にて基礎練習をして、翌2日目は、日出町の石鎚神社の岩場で、ルートクライミング。そして、今回、根子岳に行くと言うので、高崎山の岩場(別院)にて、再度クライミング講習。この時は、Sも加わりました。一夜漬けになるかもしれないが、少しでも、安全に、確実にと岩を登りました。

クライミング(自然の岩を登るクライミング)は、何かと言うと、危険を排除し、安全度を高めた岩登りの事を言います。これは、私の個人的な考えです。私は、現在、50歳半ば、若い時のように、バランスも良くない、敏捷性も劣った、運動神経も若い時の半分、体重も増えた。でも岩をさわり、体を高みへ持ち上げることは、私の好きなことです。

岩場とは、危険なエリアと言う事を、最初に認識することが、まず一番。ハイキングしかしなければ、本当の意味で、危険と安全の区別がつきません。例えば、岩のピークで、眺望を楽しみながら、昼食を食べることは、本当は危険な事です。

クライミング中であれば、セルフビレイを 取っての食事。(セルフビレイとは自己確保 のこと)でも、ハイキングでは、そのような ことはなく、もし、昼食の一品が、落ちたら、 それを取ろうとして、間違って、人が落ちて しまいます。それを、危険と安全の境と言い ます。

クライミングが上手ければ、上手い方が良いにこしたことはないが、本当は、自分の命を守るすべを学習することが、一番と思います。自分の命が守れてこそ、パートナー(ザイルにつながっているパートナー)の命を守れます。最低限の基礎をK、N、Sの3人に

学んでほしいと練習しました。

そして、3人にとっての本番。根子岳縦走。 結果は、途中にて、退却となりました。

重廣さんの大声による注意(指摘?)。その 大声の意味が判らず、いろいろな行動をとり ました。自分の身を守り、パートナーの身を 守ると言う大切なことが出来なかったので す。

私は、3人の方、全員からは意見を聞いていませんが、一人の方は、こう言いました。『重廣さんが、あれほどまでに言ったことを考えるに、安全確保等のロッククライミングの技術・知識は岩登りをする特殊な人たちだけに必要なのではなく、およそ山に入るすべての人に必要な前提の技術・知識だということだったと思います。もっと、トレーニングと勉強をしなければ。』と言われました。

私は、これで、危険と安全の区別が判ったなと思いました。この後、彼らは、大洲の体育館や、他の岩場でトレーニングを開始したと聞きました。

そして、6月のJAC東九州支部山行は、四国の剣山から三嶺の縦走でしたが、彼らは、ロープと若干の登攀具を持って行きました。 例えば、もし、三嶺の鎖場の登りで、誰かにアクシデントがあり、転落でもしたら、ロープが無ければ救助は出来ません。





ただ、携帯でヘリコプターを呼ぶだけ。また、もし天候が悪ければ、ヘリコプターも飛ばず、最悪な事態になるかもしれません。『より安全な登山のために』とは、安全に生きて帰るために、しなければならないことは、多くあり、それに気づくことが一番です。



4. インフォメーション

お知らせ事項

山登り・トレッキング入門講座 初心者のための

東九州支部主催の初心者のための山登り講座を実施することになりました。

対象は一般の初心者(これから山登りを始め

ようと言う人や山登りを始めたばかりの人 など)です。知り合いなどに受講紹介して下 さい。また会友でも受講できます。(座学受

講料:1回1000円)

主な内容と期日等

主なカリキュラム

座 学 (コンパルホールで)

- トレーニングの仕方
- ②いろいろな山の紹介
- ③山で遭難しないため 山でのけがや病気に備えて
- ④山の気象と天気

山で迷わないため(地図・磁石・GPS) など座学で4回(9月12日・26日、10 月10日·24日) PM19:00~21:00 実践講座(実際に登って)

- ⑤テント泊まりや小屋泊まり
- ⑥山の計画の建て方、冬山の体験など 受講料

座学4回分4.000円 別に実践講座(山行)は実費頂きます。 (2回、11月、12月)

定員

20名(先着順で名になり次第しめ切り) 参加申し込み 事務局

山の安全を祈る集い

日 時 8月5日(日曜)午前11時

場 所 久住御池避難小屋上の遭難慰霊碑 前

行 事 遭難者の慰霊と登山の安全祈願

趣 旨 今から82年前(昭和5年8月)の 九重山で始めての遭難(若者2名死 亡)者の慰霊碑の前で、これまでの 九重山を始めとした多くの山の遭

難者の慰霊を行うとともに、これか らの山の安全を祈る行事を行う。 (読経祈願、弘蔵岳久法華院白水寺 第26代院主)

主 催 日本山岳会東九州支部と法華院温 泉の共催

参加対象 一般参加者募集

①山の道具の選び方、山の登り方、歩き方 参加方法 基本的に現地集合とするが、希望 者については牧ノ戸峠登山口から 一緒に案内します。

> ※支部員(会員及び会友)で参加できる人 は支部長(加藤)または事務局長(飯 田)までご連絡下さい。また、知人友 人等への参加呼びかけもよろしくお願 いします。その場合、参加者・参加方 法等(現地参加か牧ノ戸から一緒に参 加か)をお知らせ下さい。



合宿交歓会と清掃登山

合宿交歓会

期 日 10月20日(土)~21日(日)

場 所 坊がつる「あせび小屋」

会 費 5000円

清掃登山

期 日 10月21日(日)

場 所 坊がつるから平治岳に至る登山道 の清掃「あせび小屋」での合宿交歓会の翌日 実施します。合宿交歓会には参加できないけ ど、清掃登山には参加できる人は当日午前9

時までに坊がつる避難小屋前にお集まり下さい。

参加申し込み 合宿交歓会、清掃登山の参加 希望者は9月30日(日)までに、支部長(加藤 英 彦 TEL: 097-543-0333、FAX: 097-543-0344、email: kato@e4510.com) まで

9月月例山行予定 釈迦岳 御前岳

月日: 9月22日(土曜日)

出発:午前6時

集合場所:大分駅上野の森口広場

金額:1人 約2000円

9月22日 大分駅 6:00~大分 I C6:10~ 日田 I C7:10~椿ヶ鼻ハイランドパーク

7:40 釈迦岳登山口 8:00~釈迦岳 9:15

~御前岳 10:40~柚木登山口

12:30~椿ヶ鼻ハイランドパーク 12:50 椿ヶ鼻ハイランドパーク 13:00~14:30 渡神岳

14:50~16:00 椿ヶ鼻ハイランドパーク

リーダー:佐藤 秀二

連絡先:090-9607-6789

email: <u>syuji-satoh@ezweb.ne.jp</u> 申し込み〆切: 9月16日

10月例山行予定 紅葉の石鎚山

月日:10月13日~14日の1泊2日で宿泊

はテント泊 (雨の場合は変更あり)

集合場所: 別府港

出発:午前5時35分発 フェリー

コース及び日程概要:八幡浜港 8時 25 分着で出来ればその日のうちに石鎚山登頂を… (一寸厳しいかも)。コースは土小屋~石鎚山の往復。キャンプ場は面河渓。 翌日はフリー。詳細な中身については役員会等で検討します。ただし、実施日時、10 月 13 日~14 日については、変更は有りません。

リーダー:興田 勝幸

連絡先:090-9070-9407

email: okita.18.2.2@docomo.ne.jp

申し込み が切:9月25日



11月・月例山行計画 伯耆大山

日	行 動	朝	昼	夜
11/2	小倉発 23:45 高速バス	高速バス 往復 ¥14,400		各自
3(土)	米子着 06:20 米子駅発一大山寺下 山キャンブ場 テント設営 大山登山 山頂往復 往:夏道 復:行者、元谷経由	各自	各自	共同
4(日)	大神山神社一下宝珠越し一上宝珠一ユートピア小屋一象ケ鼻ー三鈷峰一上宝珠一砂スベリー元谷ーキャンブ場 テント撤収 定期バス発 18:10一米子着 19:04 高速バス 米子発 22;30	共同	各自	米子にて自由
5(月)	小倉着 05:55	解散		
	自家用車利用者は大山寺集合解散とする	 	 	
装備	個人(必携品)	71,322,		
	シュラフ、マット、ライト食器			
	共同	分担		
	テント			
	シート			
	コンロセット. ガス			
	鍋、お玉、			
	その他			

大山壱岐国立公園の主要部をなす大山は 白山火山帯に属し、旧期の成層火山に出来た カルデラに、新規の鐘状トロイデ火山が噴出 して出来た腹式火山群である。主峰は 1709mの大山である。

その山容は東方に延びて剣ケ峰、天狗ケ峰、 槍ケ峰、三鈷峰と屹立して美しい稜線を描い ている。頂上台地には特別天然記念物のダイ センキャラボク群や中腹はブナの原生林が 自然美を作っている。(昭文社大山・蒜山高 原より)

秋の大山は紅葉が美しく、全山が赤に染まり、冬の大山は白一色の雪の世界となり岳人のメッカである。

登山口に下山(シモヤマ)キャンプ場があり、夏冬を通して利用される。

今回は此処を基地として山頂往復と三鈷 峰往復登山をする。

交通は福岡発米子行きの夜行高速バスを 利用するが自家用車希望者は大山寺バス停 の集合解散とする。

申込期限:9月25日。

10月26日(金)ミーティング予定。

申込者は氏名、緊急連絡先を連絡の事。

申込先:支部事務局又は催行責任者

連絡先: 星子貞夫 080-2727-2438

email: sada-hoshi-1931@sage.ocn.ne.jp



8000m 峰四座を眺める大展望台に登頂 ゴーキョ・ピーク (5360m) 登頂トレッキ ングの誘い

期日 2012/9/29~10/17

申込 東九州支部会員 星子貞夫

携帯 080-2724-2438

メール sada-hoshi-1931@sage.ocn.ne.jp

ゴーキョ・ピーク(5360m)登頂トレッキングのコースはエベレスト街道と尾根一つ手前の谷のドード・コシを遡行します。

ドード・コシの源流はンゴズンバ氷河で、 チョー・オユ、ンゴズンバ・カン、ギャチュ ン・カンがその源であります。

華やかなエベレスト街道と異なり、静かな 神秘に満ちた谷間です。湖が点在し

チョー・オユ、エベレスト、ローツェ、マカルーの 8000m級の山をはじめ無数のピークが 360°で展開します。

宿泊はすべてロッジを利用します。

予定費用: 登山料 30万円

航空費用 15万円

その他 チップ

申込期限:7月31日

予約金: 5万円

振込先: みずほ銀行 大分支店

普 1832376 星子貞夫

ゴーキョ・ピーク登頂トレッキングの日程

29	1	福岡空港〜カトマンズ			
30	2	カトマンズ ~ ルクラ(2840M)~ファクディン(2610M)			
1	3	ファクディン〜ナムチェ(3440M)			
2	4	ナムチェ 泊(3440M)			
3	5	ナムチェ~サナサ(3780M)			
4	6	サナサ~フォルチェタンガ(3680M)			
5	7	フォルチェタンガ~ドレ (4200M)			
6	8	ドレ~マチェルモ(4410M)			
7	9	マチェルモ~ゴーキョ			
8	10	ゴーキョ(4790M) ~ゴーキョ・ピーク(5360M)「ゴーキョ泊まり」			
9	11	ゴーキョ泊まり 予備日			
10	12	ゴーキョ~マチェルモ			
11	13	マチェルモ〜モンラ			
12	14	モンラ~ナムチェ(シャンポチェ・バノラマ)			
13	15	ナムチェ〜カトマンズ 「ヘリで移動」			
14	16	カトマンズ泊まり 世界遺産見学			
15	17	カトマンズ泊まり 世界遺産見学			
16	18	空港ドロップと共にツアートレッキング解散。帰国です。			
17	19	福岡空港着			

編集後記

感 想 パソコン操作に手間取って会報 が遅くなり申し訳ありません。

読者の声 会報に関するご意見・記事や 原稿などは次のメールアドレス

へお送りください。

yariho1953@yahoo.co.jp

2011 年 10 月 25 日 発行 東九州支部 支部報 55 号 発行者 加藤 英彦 編集者 久保洋一·中野稔 発行所 事務局 〒874-0820 別府市原町 5-14 飯田勝之方 Tel·Fax 0977-21-3437